

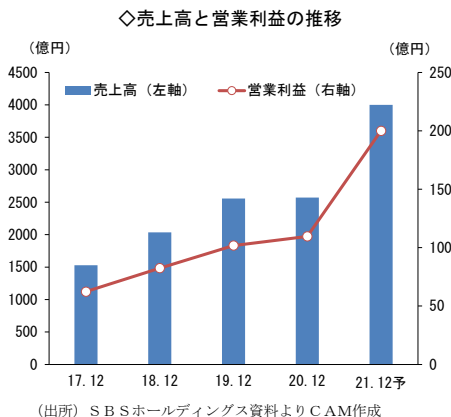
企業ニュース SBSホールディングス

(東証1部 : 2384) <http://www.sbs-group.co.jp/>

作成者:高見澤晶子

M&Aによる物流事業の成長に期待

1987年設立の総合物流企業。3PL（企業から物流業務を一括で請け負う事業）や物流施設の開発・流動化に注力している。21.12期・第2四半期累計のセグメント別売上高構成比は物流90%、不動産8%、その他2%。M&Aを重要な成長戦略の一つと位置づけ、大手企業の物流子会社をグループ化し業容を拡大してきた。2018年8月にリコーロジスティクス、2020年11月に東芝ロジスティクスを子会社化。また、2021年4月には古河電（5801）の子会社である古河物流を子会社化することを発表。その他、中小規模の事業者のグループ化も積極的に進めている。継続的なM&Aによる国内外ネットワークの強化や3PL事業の拡大、統合プロセスを通じた収益性改善などが期待される。



物流事業好調、今期2度目の上方修正を発表

21.12期・第2四半期累計（1-6月）の連結業績は、売上高が2,022億円、前年同期比57%増、営業利益が140億円、同124%増。物流事業における東芝ロジスティクスの新規連結効果と国内外の企業間物流の回復、不動産事業における大阪の南港物流センター譲渡などが寄与した。物流事業の営業利益は、東芝ロジスティクスの新規連結効果を除いても大幅増益であり、ポジティブな印象。5月25日公表の計画比では売上高で22億円、営業利益で10億円の上振れ。東芝ロジスティクスのグループ化に伴う3PLなどの伸長が想定以上だった。

21.12期の通期会社計画は、売上高が4,000億円、前期比56%増、営業利益が200億円、同82%増。上期実績を踏まえ、売上高で100億円、営業利益で10億円を増額。上方修正は今期2度目となる。会社は東芝ロジスティクスの寄与や、本社機能の移転に係る費用などを慎重にみて、下期の営業利益計画を60億円に据え置いたが、企業間物流の本格回復により物流事業は下期も堅調さを維持するとみられ、計画上振れが期待できよう。

[株価動向・投資判断]

積極的なM&Aによるシナジーや物流施設の流動化などにより、中長期的な業績成長が期待できよう。

<2384 SBSHD 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	経常利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	1株利益 円	1株配当 円
19.12	255,548 (26)	10,176 (23)	10,172 (34)	6,079 (38)	153.1	30.00
20.12	257,192 (1)	10,960 (8)	10,883 (7)	6,826 (12)	171.9	35.00
21.12 予	400,000 (56)	20,000 (82)	19,500 (79)	10,700 (57)	269.4	54.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2021/9/10)	4,090 円
年初来高値 (高値日)	4,150 円 (21/9/7)
同 安値 (安値日)	2,370 円 (21/1/22)
予想 P E R (21.12 予)	15.2 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,443.8 円
P B R	2.83 倍
予想配当利回り	1.32 %
(1株当たり配当金年54.00円)	
R O E (20.12)	14.2 %
発行済み株式数	3,972 万株